

## 第二回荒尾市民病院あり方検討会議事録要旨

◇日 時：平成22年11月11日（木）14時から15時20分まで

◇場 所：荒尾市役所 3階31号会議室

◇出席者：【あり方検討会委員】・・・7名

小野友道氏（熊本保健科学大学学長）、高橋洋氏（荒尾市医師会会長）、藤崎龍美氏（荒尾市社会福祉協議会会長）、下條寛二氏（株式会社 近代経営研究所専務取締役）、池田洋一郎氏（有明保健所所長）、生野繁子氏（九州看護福祉大学看護学科長）、立石和裕氏（立石公認会計士事務所代表）

欠席：鴻江圭子氏（荒尾市行政改革推進審議会）

事務局：【荒尾市】・・・7名

山下副市長、山崎総務部長、堀江総務課長、橋本財政課長、浅田政策企画課長、田川室長、林田副主任

【荒尾市民病院】・・・6名

大嶋病院事業管理者、荒牧副院長兼事務部長、島崎看護部長、近藤事務部次長兼経営企画課長、野村総務課長、中野医事課長

以上、出席者計 20名

### 1. 開会

浅田政策企画課長が開会を宣言。

### 2. 会長挨拶

前回の検討会では、荒尾市民病院から、地域全体の医療確保、医療の質の向上や経営効率化を目指した、中期経営計画の取組状況について報告を受けた。その後、平成22年度第1四半期の収支状況や、平成21年度決算見込みに基づき、各委員から様々な意見交換が行われた。そして、立石委員からは、中期経営計画の目標と決算結果を比較した、経営効率化の視点からの経営分析資料について、詳しく説明をいただいたところである。

本日の検討会では、中期経営計画の取組に関する意見を踏まえ、事務局が作成した点検・評価報告書（案）について審議を行っていきたい。

### 3. 検討事項

#### （1）第一回会議録について

荒尾市政策企画課田川室長から、第一回荒尾市民病院あり方検討会議事録要旨（案）の内容確認及び荒尾市ホームページでの同議事録要旨の公表について説明を行い、全会一致で了承を得た。

## (2) 荒尾市民病院中期経営計画の実施状況に関する点検・評価報告書(案)及び同資料(案)について

荒尾市政策企画課田川室長から、同報告書(案)に基づき、点検・評価の実施目的や、中期経営計画における実施項目毎の目標と実績を比較した達成度を評価した、平成21年度荒尾市民病院中期経営計画評価調書について説明が行われた。

(主な意見)

- 報告書に関する全体的な構成については、これで良いかと思われる。
- 平成21年度の決算状況から判断すると、経営状態が改善の方向に向かっていることが確認出来る。また、全国的に医師不足が課題とされる中、医師が3名増員されたことは、特に高く評価できる。
- 前回も述べたが、病院の建設には通常3年～5年、長ければ7年～10年の期間を要する。県内城北地域や近隣自治体の他の病院と比較した場合、荒尾市民病院はかなり老朽化が進んでいる。病院としての魅力を向上させるためにも、あり方検討会の提言書では病院の建設について触れた方が良いと思われる。
- 学生や看護師が就職先の病院を検討する場合は、病院ホームページの看護部のページを確認し、その病院で看護師が大事に扱われているかを判断基準とする傾向がある。また、城北地域においては、看護部長が副院長である病院は未だ存在していないので、看護師が病院経営へ積極的な参画を図ることにより、看護師の確保や医療の質の向上に繋がるのではないかとと思われる。
  - 看護部のPRを図るため、ホームページを更新し、看護部長の紹介や、市民病院に在籍する3名の認定看護師についての記事を掲載したところである。
- 認定看護師については、近隣地域の研修体制等にどのような役割を果たしているか。
  - 地域の医療関係者及び看護関係者に対して研修会を実施している。認定看護師の更新審査に当たり、研修への参加も自己研鑽の実績として加味されるため、積極的に対外的な活動を行うよう働きかけている。
- 市民病院としては平成21年度における全体的な評価結果をどのように捉えているか。
  - 中期経営計画の実施項目を個別に見た場合、目標を達成していない指標が存在するものの、病院経営に関する重要な項目については改善が図られてきていると認識している。在院日数を削減すると、連動して病床利用率が低下するため、医療収益のバランス上難しい面がある。
  - 市民病院には呼吸器の医師が不在のため、現在、熊本大学へ医師の派遣依頼を行っている。中期経営計画の「再編・ネットワーク化」に向けて可能な所から着手するため、近隣の病院へは一般的な呼吸器内科の医師、市民病院には肺がんを中心とした呼吸器内科の医師といった住み分けを目指している。同じ診療科目でも各病院が特色を持つことで、医療機関の再編やネットワーク化が促進されるのではないかとと思う。

- 病院再編や建設については、経営改善が図られるのを待っているのでは時間を要しすぎるので、経営改善と並行して検討を行っていく必要があると思われる。医師の確保を目指しても、若い医師は老朽化した病院を敬遠している模様である。  
→本市の財政状況については依然厳しく、新たな公共投資を行うことが出来る余裕が無い状況である。早急に建設へ向けた取組みを行うことは困難が予想されるが、中期経営計画の実施項目に着実に取り組み、長期的な展望を持ちながら、経営改善へ向けた努力を継続していきたい。
- 病院の建設を始めとした医療環境の整備については、患者や医療従事者の確保に繋がることは理解出来るが、他の公立病院においては、建設したものの利用者が伸びず、赤字に苦しんでいるところも多い。また、建設に当たっては、有明医療圏、将来の人口推計や、近隣自治体の住民も視野に入れた、他の医療機関と重複しない診療科の配置が求められる。厚生労働省の統計資料によると、全国的にも平均在院日数は減少の傾向が見られるので、適正な病床数のあり方や、地域にとって不足している診療科は何かを見据えながら、建設計画の検討を進める必要がある。
- 病院建設については、各委員から様々な意見が挙げられているため、あり方検討会の点検・評価報告書の文中では、病院建設に関する記述を強調して表現する必要があるかと思われる。
- 今後は有明医療圏に限らず県境も超えた、広域的な医療連携が求められると思う。
- 報告書 11 ページの「看護師の確保」に記載されている目標内容としては、既に認定看護師の資格を有する看護師の確保を目指しているのか。  
→認定看護師の有資格者を確保するのではなく、認定看護師を目指す職員への研修体制を充実させ、資格取得を支援することで認定看護師数を増やすことを目指している。
- 看護師確保を目指して看護学校への訪問や PR が挙げられているが、高校生が進学先を決めた時点で、病院等の奨学金の受領が既に決定していることが多いため、看護学校の学生に限らず高校生に対しても、その前の段階において PR 活動を行った方が効果的だと思われる。
- 大学としても定員枠を拡大したいという思いはあるが、看護実習を受け入れてくれる病院が少ないことが課題である。

小野会長：提言書の内容については、本日の各委員の意見を加味し、語句や体裁の修正については会長と事務局に一任していただいでよろしいか。

(異議なし)

山下副市長：この度は、小野会長、高橋副会長を始め「荒尾市民病院あり方検討会」の各委員においては、平成 21 年度の荒尾市民病院中期経営計画の実施状況について点検・評価をいただいたところだが、決算上の最終利益が 1 億 7,400 万円と、全般的には順調な滑り出しではないかと考えている。しかしながら、各委員の意見にあるように、医師や看護師の確保、病床利用率や平均在院日数などの、今後も継続して改善しなければならない課題があると認識している。本市としても、この報告書を基にして、改善すべき点は改善し、目標を達成したものについては今後も維持できるよう、病院と行政、そして市民が一体となって着実に改革を進めていかなければならないと考えている。検討会の委員においては、荒尾市民病院の地域中核病院としての役割や経営の効率化等について、今後とも忌憚のない意見を賜り、今後とも協力をお願いしたい。

大嶋事業管理者：平成 20 年度に策定した荒尾市民病院中期経営計画も、現在のところ順調に推移しているものの、今後も各実施項目の状況を注視しながら病院事業を運営していくことが肝要であると考えている。各委員のご意見の中で病院の建設についての様々な視点から議論をいただいたところだが、一歩ずつ改革を進めながら、十分な検討を行いたい。今後も地域医療を守るという観点から、各委員の意見を参考にしながら、医療の質の向上と経営の安定化へ向け、職員が一丸となって努力していきたいと考えているので、来年度も引き続き、ご指導をお願いしたい。

#### 4. その他

浅田政策企画課長から、今後の予定として、12月6日（月）の午後にあり方検討会を代表して、小野会長及び高橋副市長から市長へ報告書を提出する旨を説明した。また、各委員については平成 23 年 8 月 5 日に、一旦、2 年間の任期が終了するが、来年度も引き続き、今年度と同様に平成 22 年度の病院の取り組みや中期経営計画の実施状況について点検・評価していただくようお願いした。

#### 5. 閉会

小野会長が 15 時 20 分に荒尾市民病院あり方検討会の閉会を宣した。

以上